

おわりに

学生生活についてまとめると、2000年から2020年にかけて、学生が全国から入学していることには変わりはないが、関東近辺の学生については、自宅から通う学生の割合が増加傾向にある。家賃、アルバイト等の生活面については、大きな変化はみられないが、南関東に位置していることもあり、収入及び支出は全国的な平均よりも多少多い傾向にある。

学生支援に関する大きな変化は、「ふれあいの環」学生総合支援センターの創設である。学生・教職員、そして地域住民が協同して多面的な活動ができる場ができたことは大きな成果である。

そして、何より東日本大震災、コロナウイルス感染拡大という大きな災害に見舞われたことが大きく、学生生活にも多大なる影響を与えた。入学式、卒業式、大学祭をはじめ、課外活動の大きな行事が中止となり、これまで当たり前存在していたものが大きく変わってしまった時期であった。学生にとっては、つらい、厳しい学生生活を送らざるを得なくなったことは想像に難くない。しかし、オンラインによる活動が急激に発展し、オンラインによる亥鼻祭も行われた。今後は、このような活動も取り込みながら、学生がより充実したキャンパスライフを送れることを期待したい。

第2節 卒業生との連携

第1項 千葉大学校友会

(1) 校友会の設立

本学における全学同窓会の設立は、1999（平成11）年頃、磯野可一学長によって構想された。国立大学の法人化を目前にし、既に強大な同窓会組織を有す都内私立大学と伍していくため、「大学の内外の団結を強力に進める必要」を痛感していたという。2年後の2001（平成13）年9月に準備委員会が正式に発足し、10月の役員会において「千葉大学校友会」の設立が決定した。この間、会則（案）や組織体制が検討された。

2002（平成14）年3月1日の校友会設立総会（於・幕張プリンスホテル）において、全て原案の通り承認され、全国の国立総合大学に先駆け、全学同窓会組織「千葉大学校友会」が設立された（『千葉大学校友会誌 2001-2004』2005年3月）。



写真1-8-2-1 校友会設立総会

図1-8-2-1 校友会シンボルマーク



校友会は「千葉大学及び各学部同窓会の発展に寄与し、会員相互の親睦・情報交換を図り、社会に貢献するとともに、千葉大学の国際的発展を推進すること」を目的としている（「千葉大学校友会会則」）。2004（平成16）年には学内外の繋がりをC・Uの円で表した校友会シンボルマーク（工学部・宮崎紀郎教授デザイン）も制定された。

（2）校友会の活動

校友会活動は、学長を会長とする役員を中心に構成される「世話人会」および各学部同窓会代表で構成される「幹事会」により、活動内容全般を議決する「総会」の開催が主たる運営業務となっており、現在事務局は企画部渉外企画課内に置かれている。

設立当時は総務部総務課にて運営事務を担当していたが、卒業生との繋がりおよび広報活動を担うべく卒業生室（初代室長・山本恵司副学長）が、2008（平成20）年に新たに設けられた。2014（平成26）年10月に同室は運営基盤機構アラムナイ部門（初代部門長・竹内比呂也副学長）に変わり、現在に至る。

具体的な広報活動として「校友会報」（2007年～2019年、全13号）の発行、校友会SNS「Curio」（2007年10月～2022年3月）の運用等をおこなってきた。「Curio」は、会員外の閲覧を不可とし、実名登録・表示されてサイト内での相互連絡を可能にしたSNSであり、独自の取組として当時注目を集めた。しかしながら、SNSの多様化、個人情報に関する時勢の変化等によって2022年に役割を終え、現在は校友会公式Facebook・Instagramを利用し、卒業生への情報発信をおこなっている。

校友会は各学部同窓会を基盤として組織されているが、学部を横断して相互の親睦を深め、本学と産業経済界の発展を目的とした組織として「千葉大学経済人倶楽部・絆」が、2009（平成21）年に発足した。メールマガジン「卒業生との絆ニュース」（2008年8月～2019年1月、全241号）の発信、「卒業生サロン」の運営等の活動を

おこなってきた。2019（平成31）年4月に一般社団法人となり、同年9月に千葉大学と包括連携に関する協定を締結し、支援事業を拡大している。

2009（平成21）年より大学祭開催時に開設した「卒業生サロン」は、2016（平成28）年から「ホームカミングデー」となった。校友会総会終了後、卒業生・在職教員による講演やサークル等のパフォーマンスによって構成される催事として、広く地域住民にも開かれた形で開催されている。

(3) 校友会海外部門

校友会設立の4年後、2006（平成18）年には、卒業・修了した留学生との繋がりを維持・発展させ、本学の国際的發展に寄与すべく「海外部門」が始動した。

海外部門は、当初校友会の一部門であったが、帰国留学生との連絡、現地でのネットワーク確立に尽力したのは、新倉涼子教授をはじめとする国際教育センターの教職員であった。以上により、事務局は同センター内に独立して設置されることとなった。

2007（平成19）年から海外校友会支部設立の動きが始まり、アジア・オセアニア地域に12ヶ国・17支部、北米・中南米地域に3ヶ国、ヨーロッパ地域に6ヶ国、中東地域に2ヶ国、アフリカ地域に1ヶ国、計24ヶ国に校友会海外支部が展開している。

海外校友会支部ネットワークとの連携により、母国の大学・研究機関等で活躍する帰国留学生6名を本学に招聘し、英語によってセミナー形式で学ぶ、新たな学修プログラムが2011（平成23）年から実現している。

なお、海外校友会事務局は国際教育センターに新設された「インターカルチュラル・スタディセンター（ICS）」に2016（平成28）年に移管されている。海外同窓生との連携によって国際教育活動を推進し、校友会海外部門のさらなる発展に向けた活動が始められている。

図1-8-2-2 海外校友会支部設置状況



(4) 各学部同窓会

各学部同窓会は、総会の開催、会報の発行、HPによる広報等、卒業生相互の交流活動と大学との情報共有を中心に運営されている。同時に、学部生・大学院生への経済的支援、大学運営への支援活動等をおこなっており、各学部同窓会との繋がりは大学として欠かせないものとなっている。各同窓会の略歴と支援の概略は、以下の通りである（母体となる学校・組織の創立順）。

1872（明治5）年創立の印旛官立共立学舎から千葉師範学校を経て、2022（令和4）年に創立150周年を迎えた教育学部の同窓会は、1947（昭和22）年に設立された。2004（平成16）年からは、同窓会員より選任された進路相談員が、教員志望の学生へ支援活動をおこなっている。また、創立150周年にあたっては、記念諸事業に対して全面的な支援活動をおこなっている。

1874（明治7）年創立の共立病院から千葉医科大学を経て、2024（令和6）年に創設150周年を迎える医学部の同窓会は、1940（昭和15）年に現行の「みのはな同窓会」として設立された。また、「地域みのはな同窓会」が全国各地で活動している。伝統ある「猪之鼻奨学会」を通じた学生支援ほか、規模や件数ともに多くの支援を同学部にもたらしている。特筆されるのは、同窓会が「歴史を共有する」活動に熱心なことである。「学問の伝統を語り継ぐ」という営みが、大学と卒業生との繋がりを強くする活動として奏功している。

1890（明治23）年設置の第一高等中学校医学部薬学科から千葉医科大学薬学専門部を経て、2010（平成22）年に創立120周年を迎えた薬学部の同窓会は、1965（昭和40）年に「みのはな同窓会」から独立し、1990（平成2）年に現在の「薬友会」となっている。「猪之鼻奨学会」を通じた支援や薬剤師卒後教育研修講座の後援等をおこなっている。

1909（明治42）年創立の千葉県立園芸専門学校から千葉農業専門学校を経て、2009（平成21）年に創立100周年を迎えた園芸学部の同窓会は、現在まで継続する同窓会としては本学で最も歴史のあるものである。1912（大正元）年に「得業士会」として発足、1922（大正11）年に現在の「戸定会」となっている。全国に支部を置き、支援活動も大規模かつ活発であり、創立100周年記念事業では「戸定ヶ丘ホール」建設支援（募金額約1億8千万円、戸定会基金から約4千4百万円拠出）、2020（令和2）年には「アカデミック・リンク松戸」と周辺施設建設支援（募金活動額約5千7百万円）をおこなっている。また、同窓会役員と現職教員との間で月1回「パートナー

シップ会議」を開催し、大学をめぐる課題を卒業生と共有する活動を継続している。

1921（大正10）年創立の東京高等工芸学校を礎とし、2021（令和3）年に創立100周年を迎えた工学部の同窓会は、学科単位であった同窓会を統合し、1968（昭和43）年に設立された。予定されていた100周年記念事業は、COVID-19の影響で延期され、現在も諸事業の実現に向けて寄附活動が継続中である。

1949（昭和24）年に新制国立大学・千葉大学が設立されて以降に設置された各学部同窓会については、以下の通りである。

理学部は1968（昭和43）年に設置されたが、旧学科・研究室単位での同窓会活動であり、学部としての同窓会はなく、支援活動は学部後援会が担っている。

1975（昭和50）年に設置された看護学部は、1979（昭和54）年に同窓会が設立されている。学部設置10周年毎に記念事業を学部と共催しており、現在は2025（令和7）年の50周年記念事業に向けて準備を進めている。

人文学部を改組し、1981（昭和56）年に設置された文学部と法政経学部（法経学部）の同窓会は、ともに1998（平成10）年に設立されている。法政経学部では就職支援室運営補助等を実施し、文学部では授業科目「現代社会で働くこと」に卒業生を招聘するなど、ともに在学生のキャリア支援の役割を担っている。

2016（平成28）年設置の国際教養学部は、1期生を輩出した2020（令和2）年3月に同窓会「紫友会」を発足させている。

第2項 千葉大学基金

(1) 基金創設と支援状況

「千葉大学基金」は、2006（平成18）年に始まった。初年度には千葉県経済界関係者、経営協議会学外委員、各学部同窓会長等を構成員とする「基金後援会」を発足させ、法人を中心に13,864,500円（588件）の支援を受けた。

翌2007（平成19）年には、金融機関より基金担当・副理事を招聘し、専任職員による「基金室」を立ち上げ、6月に「SEEDS基金」という愛称が定められた。「SEEDS」は無限の生命力を象徴する種子であり、社会を支える真の底力をもった日本一の学生づくり、大学づくりのためのチャレンジを支え、人を育てる基金にしようというコンセプトに基づくものである（「第1期中期目標期間 事業報告書」2010・3）。また、11月には専用ホームページが開設され、12月には基金室より卒業生宛に寄附依頼

を郵送するなど、積極的な広報活動が奏功し、前年の約11倍となる157,952,383円(956件)の支援を受けた。

以降、2009(平成21)年度末までの4年間で、支援額は累計約3億円に到達した。2010(平成21)年1月には、東京大学主催「大学の資金調達・運用に関わる学内ルール・学内体制の在り方に関する調査研究」の公開フォーラムにおいて、叙上の本学の募金スタイルについて発表をおこない、出席者から大きな注目を集めた。

2010(平成22)年度から2014(平成26)年度の間、平均年間寄附実績は24,412,659円となり、基金が定着し、継続的な支援が得られるようになった。この間、

表1-8-2-1 千葉大学基金収入(2006-2022)

年 度	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)
件数 (件)	588	956	1,645	1,596	1,081
金額 (円)	13,864,500	157,952,383	74,507,094	52,087,300	25,975,630
2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)
1,254	1,226	1,069	970	1,557	1,055
27,698,810	23,103,990	20,623,196	24,661,672	45,721,818	91,462,572
2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)
1,146	1,538	2,123	7,007	3,498	2,168
44,813,320	74,538,901	88,479,343	395,561,992	254,307,481	504,593,385

東日本大震災等の災害発生等もあり、学生支援をはじめとして、支援事業の基盤を充実させる必要が高まっていった。

2015(平成27)年度から支援獲得に向けた積極的な取組が開始された。一斉寄附募集にあたっては、募金活動の目的及び基金活用報告を周知するとともに、使途事業を特定した寄附金枠を新設するなど、千葉大学基金への理解を広く得られるよう環境が整備された。卒業生からの支援獲得については、運営基盤機構アラムナイ部門を中心に、校友会総会での広報、千葉大学経済人倶楽部「絆」との会合、卒業生サロンの活動等を通じて、卒業生との連携を強化している。以上により、卒業生寄附件数は前年比約1.5倍、寄附金総額は約1.9倍に増加した。翌2016(平成28)年度の増は、上の取組に加え、個人や法人など寄附者に応じた募集活動を柱とする「寄附金獲得戦略」を実践した成果である。

2017(平成29)年度から2019(令和元)年度の間、平均年間寄附実績は

69,277,188円となった。翌2020（令和2）年度にはCOVID-19によって修学が困難となった学生への支援が社会的問題となり、広く報道されたこともあって、卒業生からの支援件数は前年比約3.1倍、支援額も3.4倍となった。総合大学として多くの人材を輩出してきた本学の底力と母校を想う卒業生の温かい心情があらわれた結果と言えよう。

表1-8-2-2 COVID-19影響下（2019-2021）の収入金額（件数）内訳

	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)
卒業生	43,878,916 (1,585)	150,816,546 (4,866)	80,355,770 (2,399)
法人	15,014,072 (52)	136,610,751 (75)	88,512,450 (142)
保護者	9,614,563 (303)	32,741,808 (1,352)	19,620,300 (595)
教職員	4,220,447 (76)	21,227,062 (290)	8,940,307 (85)
その他	15,751,345 (107)	54,165,825 (424)	56,878,654 (277)
合計	88,479,343 (2,123)	395,561,992 (7,007)	254,307,481 (3,498)

(2) 基金支援事業

基金が支出される支援事業は、2011（平成23）年度より開始された。当初定められた事業は、①学生の生活環境の整備、②教育研究環境の整備、③学生への奨学金等の経済支援、④国際交流事業の推進、⑤社会連携活動への支援、⑥その他特に必要と認められる事業、である。



写真1-8-2-2 総合学生支援センター

2011（平成23）年度から2016（平成28）年度までの5年間において、最も大きな支援事業は「総合学生支援センター」（2013年竣工）設置に1億円の支援を実施したことである。このほか、②の教育研究環境の整備について、約4,210万円（うち学術研究支援約3,600万円、図書館への本の設置約610万円）をおこなっている。また、③の学生への奨学金等の経済支援について、約2,150万円をおこなっているが、このなかには2011年の「東日本大震災被災学生支援金」（受給学生19

図1-8-2-3
千葉大学基金ロゴ

表1-8-2-3 千葉大学基金支出 (2016-2022)

	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)
支援事業等	51,096,806	77,511,146	71,375,914
使途特定事業	2,028,748	9,971,563	12,889,207
合計	53,125,554	87,482,709	84,265,121

2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)
42,835,520	60,100,728	21,185,284	73,028,376
15,935,200	35,420,147	45,154,971	63,251,505
58,770,720	95,520,855	66,340,255	136,279,881

名、給付金30万円)が含まれる。その他、④の国際交流事業の推進(海外渡航の支援)について、約5,100万円の支援事業をおこなってきた。(「CHIBA UNIVERSITY FINANCIAL REPORT 2016・2017」)。

2016(平成28)年度には規程の一部改正をおこない、「修学支援基金」の創設や「使途特定事業」を開始し、千葉大学基金のさらなる発展がもたらされることとなった。

使途特定事業で上位のものを挙げれば、「みらい医療基金」には2020年から2022年の3年間で累計66,666,640円、「松戸アカデミック・リンクの整備」には2019年から2022年の4年間で累計54,470,145円が支出された。卒業学部や課外活動団体などを応援したいという卒業生の想いに、千葉大学基金が具体的に答えられるようになっている。

修学支援事業については、2011(平成23)年の東日本大震災や2016(平成28)年の熊本地震等、災害に被災し家計が急変した在学生への給付型支援をおこなってきた。特に2020(令和2)年以降の3年間は、COVID-19による修学上のさまざまな困難に対して支援を実施し、累計107,696,800円を支出してきた。

2020(令和2)年に国立大学法人のエンゲージメントの在り方が示され、卒業生も大学の重要なステークホルダーとして明示されるようになった(「国立大学法人の戦略的経営実現に向けた検討会議(第9回)」2020年10月)。千葉大学基金をはじめとする卒業生からの支援を在学生や教職員がよく知ると同時に、支援によって本学がどのようにより良くなっているか、その成果を卒業生に向けて発信していくことも重要性が高まっている。本稿も卒業生と大学との情報共有の一端を担っているが、今後「連携」がより強くなっていくことを祈念して、ひとまず閉じたい。